

## 創造と挑戦の先にある夢へ

- 1 特集/TOP INTERVIEW
  - 株式会社 大分フットボールクラブ
  - 株式会社 あわや
  - 一般社団法人 くすこのえ産直
  - 有限会社 畠田設備
  - 有限会社 山水観光
- 6 Tomopal創刊50号発刊に寄せて
- 7 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 9 けんしん同友会企業紹介
- 11 Tomopal vol.50までの軌跡

Vol. 50





©OITA F.C.

片野坂監督を迎え、J1復帰に向け新体制で挑む「大分トリニータ」。1994年4月に発足した当時の愛称は「トリニティ」だった

## 子どもたちに夢を与え 喜怒哀楽に貢献したい

今年で創立30周年を迎える「大分フットボールクラブ」。大分トリニータのチーム経営をはじめイベント企画運営、指導・管理、普及、マネジメントなどを行っている。

昨年、新たに就任した小澤正風代表取締役社長は、24年間、大分フットボールクラブでチームの経営やマネジメントなどに携わってきた、いわば生え抜きの社長だ。長年赤字経営が続いていたが、4期ぶりの黒字転換。その裏には様々な葛藤があった。

「チームの強化を図れば人材確保のための投資が必要となる。その部分では昨年は我慢の1年だった。まずは黒字経営に転換することで、働く人たちの誇りとモチベーションを高めたかった。フィールドで戦うプレイヤーも、縁の下の力持ちである私たちも、ともに幸せになることが一番の目標。今後も黒字経営を継続し、何があっても倒れないしっかりと根を張るため、ブルーオーシャンを開拓し続けたい。自分たちで正しく稼ぎ、エンターテインメント産業である以上、

自分たちが楽しいと思うことを形にしていける企業でありたい」と小澤氏。その施策として、スポンサー収入とチケット・グッズ販売に偏っていたこれまでの経営を見直し、クラブライセンスグッズの開発や、台湾での育成事業など、東アジアを視野に入れた新たなビジネスチャンスにも乗り出した。

長年現場にいたからこそその想いを、自身の経営理念としても掲げている。「設立からの企業理念は“三位一体”。みんなで一緒に作り上げていこうという理念を掲げてきた。サッカーを通じて大分の活力を盛り上げるため、大分に関わる人たちの“喜怒哀楽”に貢献するのがトリニータの存在だと思っている。大分に住んでいなくても、トリニータの活躍を喜んでくれる人たちがいて、それはきっと活力になるはず」。

大分トリニータは育成型のチームだと小澤氏。巣立っていった多くの有名選手たちが、地元でサッカー教室を開いたり、引退後にコーチとして故郷に戻れる循環型のクラ

ブチームをこれからも目指したいと話してくれた。

「J1への昇格を目指しつつ、会社として不安定な部分を改善し、世間に認めていただける企業として体を成していきたい。“二兎追うものしか二兎を得ず”で、チームとしても企業としても成長し続け、さらなる高みを目指したい。そしていつの日かタイトルを獲得し、皆さんをまた熱狂させたいというのが今の夢」と語る。

トリニータ愛、そして地元愛に溢れた企業としてのこれからは更に楽しみだ。

一番の癒しの時間は、子どもたちがサッカーをする姿を見る時。彼らの夢を壊さないよう、企業として存続していかなくてはならないと小澤氏



©OITA F.C.



©OITA F.C.



©OITA F.C.

トリニータのマスコットキャラクター「ニータン」と「リッジー」を商品に活用することで共に成長を目指す取り組み「クラブライセンスグッズ制度」にも力を入れている

### 大分中央ブロック同友会

[サッカーチーム業]

株式会社大分フットボールクラブ

代表取締役社長 小澤 正風氏

#### DATA

- 〒 大分市横尾1629
- ☎ 097-554-2250
- 🕒 9:00~18:00
- 🗓 土・日曜(ホームゲームの時は翌月曜)
- 📍 あり





## 竹田の歴史を見守りながら 進化を遂げる老舗企業

創業は明治22年。初代・都築惣兵衛氏が行商を経て、明治時代後期に城下町・竹田に金物や農具などの販売、修理などを手がける阿波屋金物店を構えたのが「あわや」の歩みの始まりだ。続く2代目の都築源太郎氏は、包丁や鎌などの刃物の販売にも力を入れ、「阿波屋」の刻印が入った刃物は店の看板商品に。その高い品質は130年以上たった今も変わらず、評判を博している。

時は流れ、今から約45年前に4代目として家業を継承したのは、自動車関連企業からUターンした現会長の都築員守氏。奥様の玲子さんと社員とともに、代々続く金物や建材類をはじめギフト商材や衣類を販売。さらに医療・介護施設やホテルなどの防火対象物の消火器、消防設備の販売や点検・維持、管理業務と、幅広い事業を展開。長きにわたり、竹田やその周辺に暮らす人々を支える店として、親しまれ続ける。

しかし時代の波が押し寄せ、ホームセンターや量販店ができ、生活用品や用具が手軽に買えるようになったこともあり、店頭での小売業は打撃を受けることに。そこで都築氏は「代々続く商売を守るだけでなく、時代とともに変化していかなければ」と、従来の事業に加え、平成15年から福祉用具の販売やレンタル、住宅改修の提案などを行う「福祉事業部」を立ち上げる。

介護用品のレンタルや販売、住宅改修事業などを行う中でも、特に重きを置いているのが、介護・医療の現場で移乗や抱え上げ

などを行う際に用いる、電動式のリフト機器「ノーリフティングケア製品」の販売・レンタルだ。

「介護の現場も人手不足が慢性化する中、ノーリフティングケア製品は、介護職の方の業務負担軽減に大きな役割を果たす。また介護を受ける側も安心して身を任せられ、これからの介護現場にはなくてはならないもの」。現在、竹田市のほかにも大分市、豊後大野市にも事業所を置き、介護施設への導入・シェア拡大に社員一丸となり務める。

「長年地域の方々に支えられここまでできた。これからは私どもが福祉事業を中心に、地域の高齢者を支える役割を果たしたい」。現在、メイン事業にまで発展した福祉事業は、息子さんであり現社長である5代目の克宜さんが先頭に立ち運営。都築氏は「5代目の進む道を見守りたい」と優しいまなざしで話す。

また都築氏は、生まれ育った竹田への想いも熱く、地元の観光事業や消防・交通安全、商工業界など多岐にわたり理事・役員業をこなす。72歳となった今も毎朝、登校する子どもたちの見守り活動にも出向き、安全な暮らしを守る取り組みに参加。アグレッシブに駆けまわる。

今後の展望のひとつに、現店舗の一部を誰もが利用できる「サテライトオフィス」に活用するなどの夢を描いている。地域に貢献し支える取り組みはこれからも続く。

「長い歴史を歩む中で、時代に合わせ柔軟に変化しチャレンジしつづける企業でありたい」と都築氏。



### 竹田同友会

[生活用品販売]

株式会社 あわや

代表取締役会長 都築 員守氏

#### DATA

〒 竹田市竹田町389-1

☎ 0974-63-2002

🕒 9:00~18:00 ㊟ 日曜

📍 あり



竹田で創業し130余年。長きにわたり地域の人たちの暮らしを支え、守り続ける店として支持されている



上／創業時から守り続け、こだわりの商品が包丁や鎌、鋏(くわ)など「刃物」の質の高さ  
下／ギフト商品や衣類、福祉用品、刃物や金物が並ぶ店内



介護においてニーズが高まる「ノーリフティングケア」製品の普及に取り組み





上／全国食味ランキングで最高の特Aに3年連続選ばれた玖珠米「ひとめぼれ」も扱う。出荷場の隣には精米所も設けられている  
下／集出荷場には続々と農産物が持ち込まれる。値付けも売り先も、数量も生産者自身が決めるスタイルが面白い



玖珠町の「JAファーマーズ Aコープ くす店」内にある直売所。新鮮な地元産の商品が多数並ぶ



福岡県内のスーパー内の直売コーナー。玖珠・九重産の農産物は、その品質の高さでリピーターも多い

## 玖珠・九重が誇る農産物の発信拠点として地域に貢献

雄大な自然と寒暖差のある気候の玖珠・九重地区は、県内でも屈指の野菜や米の産地。「地元の生産者が手塩にかけて作った新鮮な野菜や米、加工品を幅広い地域へ、収益も見込みながら販売するための拠点を作りたい」と、2022年に設立した「くすここのえ産直ネット」。

現在、九州最大の経済圏である福岡県に28店舗、大分県内2店舗の大手デパー

トやスーパーなどと提携し、一定のスペースを確保して農産物を販売する「インショップ販売」を展開。卸売市場を介さない流通のスタイルを取り入れ、事業に取り組む。

玖珠町内に設けられた専用集出荷場には毎日、生産者が次々と、自分たちが作った農作物を持ち寄る。場内には、福岡・大分県内の出荷先である店舗ごとに分かれたコンテナが設置され、生産者自らが価格を決め、値札を貼り、出荷したい店のコンテナに商品を置いていく。その後、各出荷先への配送は同法人が担い、各店舗に商品が並ぶ、という仕組みだ。

さらに面白いのは売上の状況を、生産者へメールで知らせるという点。生産者は、自分が作ったものがどこで、どのくらい売れたかを出荷の翌日にスマホやパソコンで確認できる。「普段なかなか知ることのできない売上などの情報をフィードバックすることで、生産者は“作って終わり”ではなく、

次の出荷の計画や予測をたてられるようになった。農作物を作るうえで次への施策、やりがいにつながれば」と健木良太郎代表理事。

「売ることの喜び・楽しさを実感できる」と現在、組合員（生産者）数は、約540人にのぼる。また発足当時は1～2件だった店舗数も、約30店舗に増えた。

事業拡大の要因の一つは、やはり商品の新鮮さと品質の良さ。評判は徐々に広がり、今では「玖珠の〇〇さんの作ったシイタケがほしい」など、スーパーのバイヤーやお客さん側から、生産者を指名した受注のケースも。「玖珠産・九重産」の農産物の魅力は、年々定着している。

同法人の地道な取り組みは、行政からも注目を受け、地元の観光担当者らとともに、各地のイベントにタッグを組み参加。玖珠・九重が育んだ農産物をアンテナショップ的な役割として伝えるとともに、観光PRにも一役買う。また、玖珠の小学校へ出向き「お米や野菜の授業」として、玖珠米と新鮮野菜の美味しさ品質の高さを伝えるなど、地元の農作物の素晴らしさを伝える活動にも尽力する。

「究極の目的は持続可能な地域づくりへの貢献。九州の真ん中に位置するこの地域の素晴らしさを地元産の商品で多くの人に伝え、地域が活気づききっかけになれば」と健木氏。「くすここのえ」ブランドのさらなる認知・確立にむけた今後の飛躍が楽しみだ。



「福岡や大分の方々に玖珠・九重の農産物を届けることで地域貢献できる組織でありたい」と健木氏

### 久大同友会

[農畜産物集荷・販売]

一般社団法人 くすここのえ産直ネット

代表理事 健木 良太郎氏

#### DATA

所 玖珠郡玖珠町大字帆足39-2

☎ 0973-72-1147

🕒 8:30～17:00

🗓 土・日曜、祝日（電話受付）

📍あり





鳥田代表は普通科出身で、以前は税理士事務所勤務。宇佐市の海や文化財の保護活動にも力を入れる。



## 地域の安全と利便性を 確かな技術で支える

宇佐市同友会

[水道工事、ガス販売]

有限会社 鳥田設備

代表取締役 鳥田 久生氏

DATA

〒 宇佐市大字長洲3194-1

☎ 0978-38-0030

🕒 8:00~17:00

🗓 日曜

📍 あり



地域のインフラを支える、暮らしのベストパートナー

半世紀を超える歩みを振り返ると、そのはじまりは練炭が暖房や炊事に欠かせない燃料として親しまれていた昭和30年代に遡る。以来、国内では石炭産業の衰退が進み、新しい家庭用燃料としてLPガスが台頭するなど、宇佐市長洲の「鳥田設備」は時代の変化に合わせたエネルギーを人々に届けることで地域を支え続けてきた。

代表取締役の鳥田久生氏が、初めて家業の手伝いに奔走したのは、小学生の頃のこと。当時、優れた燃料として普及が始まり、国の経済成長と共に急速に拡大したLPガスの充填作業や問い合わせへの対応は、“問題が発生してから”の対応が当たり前。大人だけでは人手が足りず、ポンペを

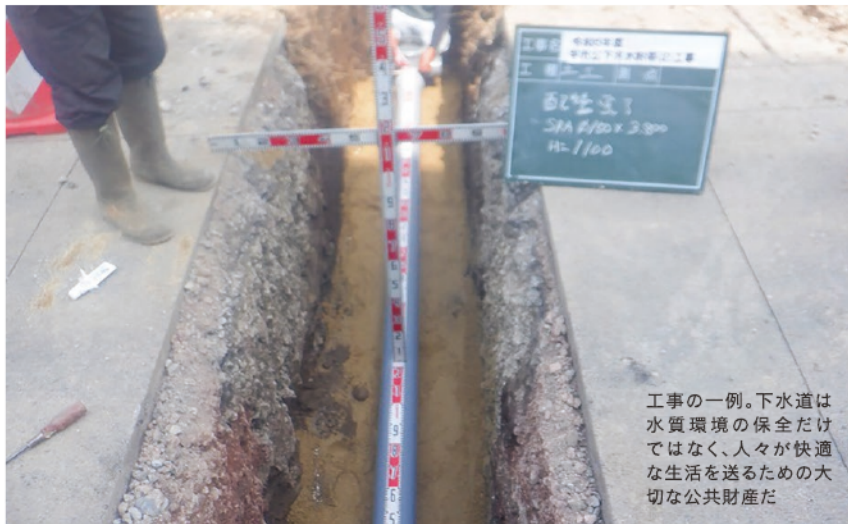
抱えて地域を駆け回った記憶があるという。

けれど月日が経ち、それでは非効率かつ利用者の真の安全には繋がらないと考えた鳥田氏は、定期的な点検や余裕を持った充填スケジュールの構築を考案。利用者との知識共有にも力を注いだ。

そして更なる転機が訪れたのは昭和46年。宇佐市が発表した水道事業に、この年から地域のインフラを長年支える会社として携わるようになった。各地域の水道事情に適した水道施設の更新や整備、耐震化などが計画され、災害に強く安定した水の供給を目指すこの事業では、異業種でありながらも、これまでの工事経験を活かし、耐震性能を有する水道管の入れ替え工事などに貢献。機械化施工が現在ほど進んでいない時代の工事は、ときに難航を極めながらも、「地震や大雨をはじめとする災害の被害拡大を防ぎたい」という使命感から、懸命に業務を遂行した。上下水道部門は多くの実績を積むことで会社の柱として成長。新たな技術や法律の勉強を定期的に行い、業界の動向を追い続けることで仕事の

裾野を広げた。

また、オール電化や新エネルギーの普及により、LPガスの需要が減退しつつある現代において、上下水道部門は大きな事業割合を占め、現在は土木を伴う上下水道工事を中心に、施設や一般家庭のあらゆる設備工事も展開する。「しかし、これまでも今も、家庭用エネルギーは日々の暮らしに不可欠であるにも関わらず、利用者がその存在を意識する機会はありません。ガスや水道はその建物にとって動脈や静脈のようなものだと思います。どんなに見た目が素晴らしくても、その2つが整備されていなければ生活することはできません。ところが、日々の暮らしに不可欠であるにも関わらず、人々がその存在を意識することはあまりありませんでした。しかし住宅設備の機能向上に伴い、私たちの仕事も少しずつ世間や業界に認知されてきたように思います。もつと多くの方々には見えなくとも大切な仕事であることを知ってもらいたいですね。」と語る鳥田社長。人々のよりよい生活を創造する挑戦は続く。



工事の一例。下水道は水質環境の保全だけでなく、人々が快適な生活を送るための大切な公共財産だ



上／会社をあげた取り組みとして、長洲海岸にて毎年ビーチクリーン活動を行う



下／地域の人々とともに、昔ながらの漁法「石干見(いしひみ)」の調査を行う鳥田代表





「ラグジュアリースイート」の寝室。隣には内湯も。贅沢で上質な旅のひとつを過ごせる、洗練された空間



「マーベラススイート」からは、たなびく湯けむりと鉄輪の風情を満喫



上／6階にある露天風呂「天空の森」。開放感たっぷりな雰囲気の中、のんびりと湯に浸かれる。下／広々としたバススタブで温泉を楽しみながら、別府の眺めを楽しめる「マーベラススイート」のバスルーム

## 時代とともに進化 満足度の高いおもてなし

街の至るところから湯けむりが立ち込め、独特の風景が旅情を誘う別府市・鉄輪。古くから湯治場として栄えた面影が今も残り、温かみとレトロな雰囲気が人気の温泉地だ。

そんな鉄輪地区で「有限会社 山水観光」は、国内外から訪れる観光客をもてなす「別府鉄輪温泉 ホテル山水館」を営む。

館内は、本館と大地館（別館）の2つからなり、別府湾を一望できる客室をはじめ、6階からの開放的な眺めと温泉を楽しめる展望露天風呂など、「至福の非日常」を満喫できる宿として、世代を越えたリピーターから愛され続ける。

現在、経営の一手を担う中尾誠社長は、先代である父から事業継承した2代目。大学卒業後、広島県にある大手自動車メーカーでエンジニアとして働いていたが20年前に帰郷。全くの異業種から事業を引き継いだ。

就任した頃は課題が山積みだったという。「事業を任された当初は、まるでブレーキのついていない自転車で、下り坂を全力で漕いでいるような状態だった」と、当時の経営状況を振り返る。

その苦しい状態を打破するため、様々な施策を進める中でまず力を注いだのが、老朽化した館内のリニューアルだった。以後、中尾氏は3～4年に1度のペースで積極的に館内のリニューアルに着手。時代とともに変化する、お客様のニーズに合わせた改革を行う。

「近年は、アフターコロナや円安など、社会情勢の変化で、お客様の宿に対する価値感も、「せっかく泊まるならちょっと贅沢な気分を味わいたい」というような志向が強くなってきている」。中尾氏は、そんな「ワンランク上の旅」を求める客層が増加していることに着目し、今年の夏「大地館」の高層階の客室を一新。

135㎡もの贅沢な広さの客室で極上の癒し時間を提供する「マーベラススイート」と、「ラグジュアリースイート」が誕生する。さらに、このフロアの宿泊者のみが利用可能な「クラブラウンジ」も設け、特別感と上質なおもてなしをゆったりと楽しめる空間を実現した。

約1年間かけ取り組んだ今回のリニューアルについて「チャレンジングではあるが、もちろん鉄輪の観光における需要を見込ん

### 別府・日出同友会

[ホテル・旅館業]

有限会社 山水観光

代表取締役 中尾 誠氏

#### DATA

所 別府市鶴見628-1

☎ 0977-66-3211

🕒 IN15:00

OUT10:00

🅐 あり



「鉄輪のことなら、よそ様の家の中まで分かりますよ(笑)」と生まれ育った鉄輪への地元愛も熱い中尾氏

でのこと。変化を恐れず、私どもも進化していくために、投資しなければ集客はできない。今回のスイートルーム新設でよりいっそう、お客様の満足感を満たしたい」と意欲を込める。

また「クチコミや評判だけでなく、一度来てくださったお客様が、自らの体験を通じて当ホテルへまた来たいと思ってくださることが何より大切。それが結果として、鉄輪の観光・宿泊業の活性化にも繋がれば最高です」。鉄輪のこれからの見据えた事業展開を行い、歩み続けていきたいと語ってくれた。



## けんしん同友会機関誌 Tomopal 創刊50号発刊に寄せて

同友会会員の皆様には、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼を申し上げます。

けんしん同友会機関誌Tomopalも平成21年11月に創刊し、15年間にわたって540社の同友会会員様にご登壇いただき、今号をもって、創刊第50号を迎えました。改めまして会員の皆様へ感謝と御礼を申し上げます。

Tomopal発刊の翌年、平成22年に大分県信用組合の理事長に就任し、同友会会員の皆様、大分県民の皆様、そしてけんしん職員とともに駆け抜けた14年間ありがとうございました。健康・子育て・観光・宇宙・DX・ESGなど多岐にわたる項目に取り組んでおります地方創生事業。その過程で120を超える地方公共団体、企業、各種団体の皆様と包括連携協定を締結し、協力体制を強固なものにしております。また、この間「けんしん」創立60周年と70周年の2度の節目を迎え、大分県信用組合の確かな成長を感じております。

その中で特に力強く感じることは、同友会会員の皆様の「けんしん」に対する熱い思いでございます。各地域の同友会で会員の皆様と親しく交わり、激励のお言葉など頂く時、改めて同友会会員の皆様あつての「けんしん」であることを確信いたします。これからも、同友会と会員の皆様の発展が大分県の発展に繋がるという考えのもと、地域経済へのさらなる貢献に努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

終わりにりましたが、会員の皆様の益々のご発展をご祈念いたしましてご挨拶いたします。

令和6年7月

大分県信用組合 理事長 吉野 一彦



けんしん同友会の機関紙として、2009年の初刊から約15年、50号を発行するに至りました。

けんしんと取引のある企業数百家が紹介され、経営者の皆様が、各々の念いで起業・継続・発展し、社会貢献を果たし、存在価値を高めておられます。そして従業員の人格向上・幸福感・安心感。取引先との相互成長等々、同友会の仲間として、大変勉強になり、目標になっていると思います。

経済学者ピーター・ドラッカーがマネジメントの基本として「いいお客がくるのも、いい人が集まるのも、すべて経営者の考え次第である」と断言しています。Tomopalが少しでもその手助けになっていれば、制作担当の事務局も励みになることでしょう。

我社、有限会社徳丸米穀店は今年で創業112年です。私は3代目として約50年経営に携わっています。45年前取引先の倒産で2億円を失いました。カストロフィー的な危機に陥った時、助けてくれたのがけんしんでした。その時の融資担当が、今の吉野理事長です。その際、問われたのが「お金というものが解りましたか？お金は信用とか責任感・使命感そのものです」と教示された記憶が強く残っています。それから私の人生が変わりました。

Tomopal創刊後の15年で見えてきたのは、余剰から不足への転換の兆しではないでしょうか。私見ですが、物が余ると不満が、不足すると謙虚になると感じます。少子化、食糧危機などの世界的な流れのなか、世界各国で行われたアンケート調査では日本国民の幸福感・満足感・将来の希望等は、いずれも最低水準にあります。50年前、私のサラリーマン時代、上司から「縮小均衡は有り得るか？」と課題を与えられたことを今でも覚えています。米は5年後には必ず不足します。この半世紀で、国は、統制、自由化、そして今、食糧安全保障と変遷しています。この間、高齢化していく農家はミッションで米を作り続けています。もちろん棚田維持等で頑張っている若い人もいますが、若い人や企業は利が無ければ作りません。少子化も同じかもしれません。

二宮 尊徳の教えに「神道は興国の道・儒教は治国の道・仏法は治心の教えなり」とあります。Tomopal100号まで、あと15年。AIの幾何級数的な進化は世界をどう変えるのか想像を絶しますが、私自身、米屋として、あと15年95歳まで現役でいられることを願い、意中有人、吉野理事長と同行二人を想っています。

結びに皆さんに福沢諭吉の箴言を贈ります。

「世の中で一番楽しく立派なことは一生涯を貫く仕事を持つこと。

世の中で一番貴いことは人のために奉仕し、決して恩に着せないことです」

大分中央ブロック同友会 副会長 徳丸 勝也様







代表取締役 **川村 涼太さん**

コンクリート打ちっ放しの壁や木目調がオシャレな社内。不動産の売買と内装の両輪で事業を展開する



**DATA**  
[不動産業]  
海月不動産株式会社  
〒大分市長浜町3-15-40  
安部ビル2F  
☎ 097-574-9831  
営業 9:00~18:00  
休 日曜、祝日 あり



## 売買・仲介業を軸に 内装も得意な不動産会社

「海月不動産」は令和3年創業の、まだ若き会社。大分県内を中心に、個人向けのアパートやマンション、分譲地や住宅の売買・賃貸の仲介をはじめ、特に力を注ぐのが、法人向けの土地・建物、ビルなどの不動産売買の仲介や販売。

「大手の不動産会社が法人顧客の取引を軸にするケースはありますが、うちのよう  
に小規模な会社がBtoBビジネスをメイン事業にしているのは珍しいかもしれません」と川村涼太社長。不動産業界で約10年間、営業マンとしての経験とノウハウを身につけ、34歳で独立を果たした。

またもうひとつ強みとしているのが、自社で内装部門を設けている点だ。現在、大工や施工管理士のスタッフ3名が在籍し仲介・売買物件を中心に、内装工事やリフォームを行う。「自分で不動産業をするなら、内装も自社で手がける事業をしたかった」と川村氏。モダンでセンスの良いデザインの仕上がりは好評で、内装やリノベーションの

みの受注も高まっている。

今後について川村氏は「まずは会社の認知度を高めるために、今やるべき事業にコツコツと取り組み、お客様に依頼してよかつた」と、喜んでもらえる企業になりたい。また近年、物価高騰や少子化の影響もあり住宅用地よりも、ビルなどの事業所向けの不動産の売買は好調。1人のお客様が複数の不動産を購入し、運用する傾向も強くなっている。これからも時代の流れやニーズを敏感にキャッチし、最適な提案をしたい」。

設立当初は、川村氏含め2名から始まった同社も、設立3年で総勢10名の会社として成長。「頑張ってくれている社員たちが成長していく姿をみると嬉しいし、私自身もチャレンジ精神を忘れず、さらに邁進したいと思う。また事業を順調に維持・継続していくために、専門的なスキルを持った優秀な人材を増やしていきたい」と、人材確保・育成にも意欲みせる。

# キラリ 新風力 New Wind

## 竹田の銘水を使った「豆腐」が 多くのファンをもつ店

こんこんと湧き出る名水で知られる竹田市の小津留湧水。そのすぐそばにある「おづる湧水茶屋」は、清らかな水を使った豆腐の美味しさが評判を呼び、毎日朝6時の開店から客が列をなす、大人気の店だ。

「輸入、国産といろんな大豆を試したが、やはり大分の大豆が一番美味しい」と吉野幸祥現社長が地元産の大豆にこだわった看板商品の、おぼろやもめんの「豆腐」をはじめ、油揚げや厚揚げ、大豆やおからの加工品の販売のほか、食堂も併設。「湧水定食」をはじめ豊富な料理も提供する。

店の始まりは、吉野氏のお母様が営む小さな豆腐店から。約10年前に事業を継承して以降は、吉野氏自ら早朝から豆腐づくりに打ち込む傍ら、「この場所まで足を運んで、うちの味を楽しんでくれるお客様によるこんでもらえるよう、変化していきたい」と、定番メニューに加え、「豆乳白湯豆腐」や「牛すじうどん」など、趣向を凝らした新

メニューを考案。また天候に左右されずテラス席で食事ができるよう、大型テントも設置するなど試行錯誤を繰り返しながら、より良い店づくりに取り組む。

今後やりたいことのひとつは、大豆を使ったスイーツメニューを充実させること。中でも「ドーナツ」は、午前中には売り切れてしまうほどの人気商品。「せっかく楽しみに買い求めに来てくれたのに提供できない」という課題があったため、ドーナツの製造場所を増設。より多くの人に提供できる体制を整えた。

これだけの人気店ならばネット販売や他店での小売り、多店舗経営などの事業展開もありそうだが、「あくまで豊かな自然と美味しい水がある、小津留に根差して事業をやっていききたい。この場所の良さを五感で楽しんでほしい」と吉野氏。続々と訪れる水汲みや観光途中に立ち寄るお客様のため、今日も真心込めて豆腐を作り続ける。



代表取締役 **吉野 幸祥さん**



毎日早朝から吉野氏が作る豆腐は、大豆本来の風味豊かな味わい。できたてを求め多くの客が足を運ぶ

**DATA**  
[小売業]  
株式会社 おづる湧水茶屋  
〒竹田市直入町大字下田北1385-5  
☎ 0974-78-1755  
営業 9:00~16:00  
休 火曜※他不定休あり あり







特定非営利活動法人 ぽっぽ  
管理者 梶 博登さん



写真は完成したばかりの南立石事務所。室内には明るい光が差し込む

**DATA**  
[障害福祉サービス業]  
特定非営利活動法人 ぽっぽ  
所 別府市竹ノ内8組4  
☎ 0977-23-7087  
営業 9:00~17:00  
休 日曜、祝 ☑あり



## 子ども達の笑顔を守り、福祉の輪を広げる

専門的なサポートが必要な子どもや障がいを抱える人々が、その能力と可能性を最大限に伸ばし、自立して社会参加ができるような様々な支援を行う。事業の柱は3つに分かれており、1つ目は療育が必要と認められた、2~6歳までの未就学児を対象とする児童発達支援事業「ハッピールームびよびよ」。ほかに6~18歳までの就学児が利用する、放課後等デイサービス事業「ハートフルホームぽっぽ」、障がい者の方の自立を通所による訓練などから支援する「ハートフルホームぽっぽメイト」を運営する。

代表理事 梶 容子氏が目指すのは、全ての人々が互いに優しく接し合い、ともに生きることができる社会環境を整えること。その思いの根幹には、重度の障がいを持って生まれた家族の存在があり、現在のような支援施設や法律が整備されていなかった時代に“大切な人の笑顔を守りたい”と考えて奔走した結果、平成11年によく認可外保育所の開所にこぎつけた。そして始まり

の日から25年の年月が過ぎた今、梶代表理事は「ようやく全ての歯車がうまく回り始めたように感じます」と語る。アットホームな雰囲気が漂う施設には、いつも利用者と一緒にになって笑い、ときに感動から涙を見せる職員の声が響いているようだ。

さらに今年の7月には、別府市南立石で営業する事務所の建て替え工事も終了。災害発生時に避難が困難な利用者の安全を確保するため、高い耐震基準を誇る新事務所には半地下タイプのプレイルーム兼シェルターが設計されている。また、現在は共働き世帯の増加などを背景に、児童福祉施設などのニーズが急速に高まっていると話す梶代表理事。「このような時代だからこそ家族だからできること。私たちだからこそできる支援の線引きを明確にする必要があるのかもしれない。希薄になりつつある家族関係の架け橋にもなりたいですね」と話した。

# ふわり 爽風力 Fresh Power

## ローコストでも高品質 施主の夢を叶える家づくり

1級建築士である笠原健彦現社長が、建築の世界を目指すきっかけとなったのは20代の頃、宝飾・時計店で働いていた時期に、偶然目にした1枚の手書きの設計図。それは大工であった祖父が昔、墨で描いたもの。その設計図に感銘を受けた笠原氏は、のちに店を辞め、父の営む建設会社に勤務したのち独立。平成25年に「株式会社 KAKUDO」を設立し、家を建てたいと願う人の「夢を削らない家づくり」との想いを胸に、日田市・玖珠市・うきは市エリアを中心に事業を展開する。

「家を建てる時に、予算面で無理しすぎると、その後の人生の経済面にも大きな負担になる。せっかく家を建てたのに、幸せに暮らせないのは本末転倒。限られた予算のなかでも工夫やアイデアを盛り込み、マイホームを手に入れる喜びを叶えたい」と、ローコストながらも、確かなクオリティの住宅を提案。

こだわりは「日田杉」を取り入れた設計

で、優しい木の香りと高い調湿性、クッション性に優れた木をふんだんに使う。さらにもう1つの特徴が、自社生産する断熱材「セルロースファイバー」。「何年もかけ探し、ようやくたどりついた素材」と、笠原氏が太鼓判を押すこの断熱材は、新聞紙やチラシを原料にしたもの。夏は涼しく、冬は温かい快適な住空間を作るうえで欠かせないと、手がけるすべての住宅に取り入れている。

この断熱材や高いデザイン性、独自の設計力で、コストを抑えながらも優れた品質の家を実現。完成後も施主からの信頼は厚い。

市内には2つのモデルハウスがあり、実際に見て触れて木の温もりを感じ、高性能の断熱材の良さを体感できる環境も設けている。「家を建てたいけど予算面が難しいから無理」「1級建築士の建てる家は高いのでは」そんなイメージを覆す家づくりは、日田・玖珠・福岡地域で家を建てたい人々から今後も注目を集めそうだ。



株式会社 KAKUDO  
代表取締役 笠原 健彦さん



モデルハウス「さくらのはな」。日田杉をふんだんに使ったくつろぎの空間。平家のモデルハウスもある

**DATA**  
[建築業]  
株式会社 KAKUDO

所 日田市庄手803-2  
☎ 0973-28-7773  
営業 9:00~17:00  
休 土・日曜、祝日※他不定休あり  
☑あり







# COMPANY GUIDE

保育園

## 社会福祉法人 愛友福祉会(藤原こども園)



上/平屋の、のびやかな造りの園舎で元気いっぱいにご遊べる。  
右/園内にある仏壇に毎日手をあわせる。

## 仏教の教えや遊びを通じて人間力をはぐくむ

昭和55年の設立以来、子どもたちの成長を見守り続ける「社会福祉法人 愛友福祉会」。平成29年度から、幼保連携型の認定こども園「藤原こども園」へ移行し、0歳から5歳児までの園児が、毎日のびのびと過ごす。体育教室や書き方教室など、自らの体験を通して楽しく学び、成長できる様々なカリキュラムを盛り込む中、特色の一つとして行っているのが、仏教教育。園舎内には仏壇があり、毎日園児たちが手を合わせるほか、隣接する寺「上林寺」へみんなで行き、1度お参りも行うなど、仏教の教えをもとに他人を思いやる心や礼儀も養う。

「日々の遊びの中で探求心や友達との関わりを身に付けてもらえたら」と高月善徳園長が今後、力を入れていきたいのは地域貢献。藤原地区の人々と触れ合える行事を積極的にを行い、世代の壁を越え地域と繋がっていきたくと展望を描く。



〒速見郡日出町大字藤原1836-1  
☎0977-72-7070  
🕒受付7:00~19:00  
📅日曜、祝日  
📍あり

宿泊業

## 民宿 久住



宿泊施設に隣接する「久住高原温泉」は立ち寄り湯としても利用可(大人400円)。宿泊客は無料で利用できる

## 自然と温泉が自慢の民宿は幅広い目的の利用客に人気

雄大な久住連山に包まれた場所にあり、ログハウスの客室をはじめ、個室のプライベートルームを備えるほか、敷地内には毎分100ℓの湧出量を誇る、天然温泉施設も完備。山菜や川魚など、竹田の旬の味覚を取り入れた家庭的な料理も評判だ。

年間を通じて観光客はもちろん登山客、竹田や久住を出張で訪れるビジネスマンなど、様々な宿泊客が利用する。また、陸上やラグビーなど、部活や実業団の合宿施設としても人気で、毎年夏季には県内外から訪れるスポーツ合宿の利用客で賑わう。

現在、民宿の運営を一手に担うのは、家族から事業を継承した4代目の後藤恵美さん。「たくさんのお客様に喜んでもらえるのがやりがいを感じる」。その一方で、地域の



〒竹田市久住町大字久住3946-34  
☎0974-76-1072  
🕒(民宿)IN15:00 OUT10:00  
(温泉)6:00~22:00  
※宿泊客は24時間利用可  
📍あり

旅館業

## 有限会社 牧場の家



地産地消にこだわり、工夫を凝らした演出が人気の会席料理。部屋食の提供も検討中だ

## 時代に沿った心地良い顧客体験を追求

九州横断道路が開通した昭和30年代を機に、山間の静かな湯治場から温泉観光地として、飛躍的な発展を遂げた湯布院に根を下ろす「牧場の家」。昔懐かしい雰囲気と漂わせる葺屋根が美しい温泉宿は、昨年ついに50周年を迎えた。半世紀を超える月日の中で宿が大切にしてきたのは、団体旅行から個人旅行への移行、インバウンドの拡大など、時代に伴う顧客ニーズへの対応。特にコロナ禍は宿泊業界に大きな改革をもたらしたが、苦境をチャンスと捉えた浦田透代表取締役は、よりプライベートな滞在を叶えるために2部屋の客室内に内風呂を完備。料理長を新たに迎えることで食事も一新し、現在は吟味して配色された料理と器の美しい組み合わせが評判を呼ぶ。今後は宿泊と立ち寄り



〒由布市湯布院町川上2870-1  
☎0977-84-2138  
🕒IN 15:00~17:30 OUT 10:00  
📅なし  
📍あり



家事代行・ベビーシッター業 **株式会社Bambitz**



子どもの個性に合わせた保育で心を通わす。  
現在の対象エリアは大分市中心部と別府市内に限る

頼れる場所がある。そんな安心感をママやパパへ

現代には多様な保育のニーズがありながら、公的なサービスを利用するためには多くの制約がある。子どもが発熱したが会社を休めず、預け先も見つからない。育児と仕事の両立で家事まで手を回すことが難しいなど、暮らしの中で発生するあらゆる困りごとに手を差し伸べてくれるのが「Bambitz」だ。提供するサービスは100%マンツーマンのベビーシッター部門と家事代行部門の2つに分けられ、どちらもスタッフの派遣前に必ず代表の花田亜弥氏が利用者との面談を行う。365日24時間対応という体制も、不測の事態に多く遭遇する子育て世帯の不安軽減、家を空けることが多い単身者などの心の余裕に繋がっている。また、近年は自治体との協力体制を築き、助けが必要とされる家庭のサポートにも注力。今後は対象エリアの拡大、需要が増す習い事の送迎業務も視野に入れる。



別府市市田の湯町3-7  
アライアンスタワー2F  
☎090-6293-5848  
🕒8:00~19:00  
📍不定 📞あり

専門学校 **一般社団法人 由布学園**



少人数教育による対面授業で、じっくり学べるのもこの学校の強み。  
「自由が丘産能短期大学」の併修校でもある

ビジネスの即戦力となる人材を育成し半世紀

今年で創立66年を迎える「大分経理専門学校」を運営。昭和33年、創業者の油布好文氏が大分市金池町に設立し、現在は大分本校のほか別府・佐伯・宇佐・中津に職業訓練校を展開。一貫して経理を中心としたビジネス人材を育成し、即戦力となるビジネスパーソンを輩出してきた。コースは、ビジネスで役立つ資格を多数取得できるビジネス管理科、2年間で専門学校と短期大学を卒業できる短大併修科、留学生を対象とした日本語ビジネス科があり、20代~60代まで幅広い世代が学びをとにする。



別府大分市錦町3-7-28  
☎097-534-6625  
🕒9:00~17:00  
📍土・日曜、祝日  
📞あり

簿記やITスキル、宅建士、FP技能士など、時代のニーズに合わせた資格が取得でき、地元企業や会計事務所など多くの就職実績を誇る。「何歳からでも学び直しができ、自分の可能性を広げることができる」と、スキルアップや再就職を目指す人たちに向け社会人講座も新たに開講した。

広告・デザイン業 **株式会社 UP**

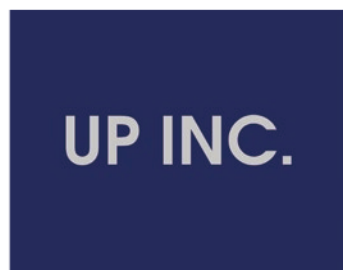


2023年8月、東京のIT企業「櫛ウェブスター」と業務提携。  
地方企業のDXの相談・支援にも力を注ぐ

地域や企業の価値を高め選ばれるための施策を提案

グラフィックやWebデザインなどのクリエイティブワークを軸に、企業や起業家の創業支援や販促支援、商品開発のサポート、ブランディングを手がける。渡邊隆子社長のご主人であり、アートディレクターの康昭氏が2008年に起業し、2018年に法人化。現在、隆子氏がディレクターとして舵をとり、二人三脚で事業を営む。

地元・宇佐市の観光事業の販促物をはじめ、農産物や加工品などの商品づくりから販促プロモーション活動を行うほか、隆子氏は、認定インキュベーションマネージャーとして大分県商工会連合会登録専門家も務めるなど活躍の場は多岐にわたる。「良いモノやサービスを提供する企業や生産者がたくさんいるが、“作って終わり”

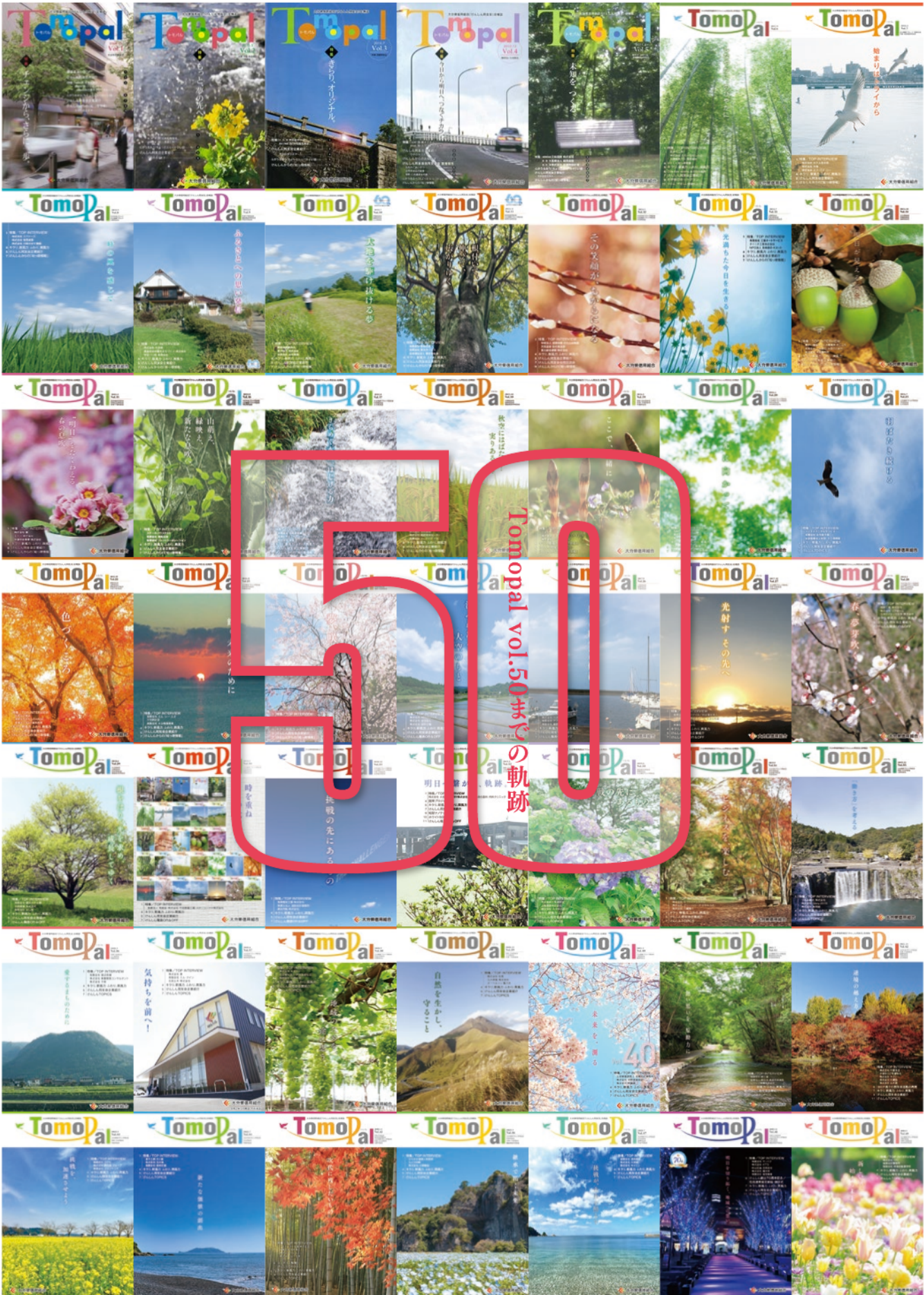


別府宇佐市山下2148-11  
☎090-4349-0055  
🕒9:00~17:00  
📍土・日曜、祝日  
📞あり

というケースも多い。強みを引き出し、企業も顧客にも喜ばれるための提案をしたい」。地域や企業の価値を高める取り組みに邁進し続ける。



2009年創刊以来、たくさんの同友会の方々をご紹介させていただきました。これからもよろしくお願いいたします。



大分県信用組合  
「けんしん」同友会会報誌 トモパル

■VOL50 2024年7月30日発行 ■発行 大分県信用組合営業統括部  
TEL 097-534-8200 ■企画・編集 株式会社アドコンセプト  
■所在地 大分市中島西2丁目4番1号

 **大分県信用組合**  
<https://www.oita-kenshin.co.jp>



本号におきましては、大分中央ブロック同友会、竹田同友会、宇佐市同友会、別府・日出同友会、久大同友会の皆さまに取材のご協力を頂き誠にありがとうございました。これからも順次各地域の同友会への取材を企画しております。なお、紙面構成の都合により至らぬ点もあろうかと存じますが、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。(会報誌編集事務局)